

経済振興委員会報告資料

ボートレース福岡における
「ボートレースパーク化」の検討状況について

令和5年6月
経済観光文化局

ボートレース福岡における「ボートレースパーク化」の検討状況について

1 「ボートレースパーク化」について

近年、ボートレース業界では、ボートレース場の遊休スペースを活用し、従来のギャンブル場ではなく、地域に開かれた施設となるため、さまざまな機能を持った複合アミューズメントパークである「ボートレースパーク化」(以下、「パーク化」という)が推進されている。

現在、全国 24 場のうち 11 場が、ボートレース振興会の助成(上限1億円)を活用した「パーク化」を実施済みで、子ども向け遊具施設やスケートボード施設等を設置しており、ボートレース福岡においても、昨年度より、「パーク化」の検討を開始している。

◆ボートレース振興会が「パーク化」に求める3つのポイント

- ① 「地域貢献、スポーツや文化の発信に寄与している常設の施設を設置」
- ② 「ボートレース場の遊休スペースを有効活用」
- ③ 「若年層・ファミリー層の来場きっかけ」

2 ボートレース福岡における「パーク化」の検討について

(1)「パーク化」の実施エリア

◆前売投票所の外向発売所(ペラボート福岡)への機能の集約化とその跡地等の活用

前売投票所は、那の津通りに面した、ボートレース福岡の本場に隣接した舟券を発売する施設であり、前売専用駐車場(140台、4,116㎡)を併設している。

外向発売所(ペラボート福岡)も、前売投票所と同様に本場に隣接する舟券を発売する施設であり、福岡都市高速道路の天神北料金所からすぐの場所に位置しているが、両施設とも近年は、インターネットを利用した電話投票の増加等に伴い、利用者が減少傾向にある。

今回、利用者が減少傾向にある両施設を集約化することにより、経営の効率化等を図るとともに、集約化により活用が可能となる前売投票所及び前売専用駐車場の跡地等を「パーク化」のエリアとして活用していく。



(2)「パーク化」の導入機能

ボートレース福岡においては、ボートレース振興会が「パーク化」に求めるポイントや本場における来場者の減少状況を踏まえ、同振興会の助成の活用を図りながら、若年層・ファミリー層の来場を促進する「パーク化」の方向性を検討してきた。

① スケートボード施設

東京 2020 オリンピックにおける日本人選手の活躍等を背景に、福岡市内においてスケートボード施設のニーズが高まっているが、都心部には施設がなく、大規模な大会が開催できるような施設もない状況となっていることや、先行事例のボートレース鳴門(ウズパーク)において設置後約4年で 18万人以上が利用している状況であることから、「パーク化」においては、幅広い利用を可能とするようなスケートボード施設の検討を進めていく。

② イベントスペース

ボートレース福岡の魅力を発信するさまざまなイベントの実施を可能とすることにより、「パーク」の賑わいの創出やボートレースファンの新規拡大につなげていく。



『パーク化』イメージ

(3)今後の検討

事業手法については、民間活力の導入も検討しながら集客力のある魅力的な施設となるよう、令和 5 年度中に整備や運営手法、スケジュールの検討を行い、適宜、議会への報告を行っていく。

